

西アフリカの実情

67期 熊野 裕

——1979年12月～82年に3年近く東京銀行(現・三菱東京UFJ銀行)のラゴス駐在員事務所長をしていた間の体験にその前後の経緯を加え、西アフリカ諸国の問題点を示唆する。——

今 1960年代に次ぐ2度目の**アフリカブーム**。アフリカ大陸のGDPは既に日本の1/3の水準で今後高成長の見込み。

国連の予測ではアフリカの人口増加率は年2.3%で、現在10.7億人のアフリカ大陸の人口は50年には21.9億人に達し、国別の人口ランキングでは首位インド、2位中国、3位はナイジェリアになる。22世紀前半の世界の人口分布はアフリカ40億人、アジア同じく40億人、その他が20億人になる。中国・インドを含むアジア諸国は高齢化して行くが百年後のアフリカの担い手はなお青年壮年である。**アフリカの成熟市場の規模は現在の欧州を超える。**

アフリカは3030万平方kmで**日本の80倍**もあり一言では括れない。

西アフリカは私がいた30年前以降、**経済が停滞し貧富の差が広がり政治も混乱していたが**、資源ブームの再来で2002年～11年のサハラ砂漠以南の平均成長率は年5.8%で世界平均の年3.8%を上回った。11年現在、日本にはアフリカ全体の中からナイジェリア人2,730人、ガーナ人1,891人、エジプト人1,382人が暮らしている。

最近アフリカに着々と進出している**中国に日本は遅れを取っているが、以下の問題点に留意しながら日本もアフリカへ本格的に進出するべきときだ。**

大消費地としてのアフリカには食料品・携帯電話・家電製品・自動車などの輸出が期待できる。また官民一体となってインフラ整備を売り込み、人材や市場の育成を後押しし、更にアフリカの石油・天然ガス・鉄鉱石・貴金属などの地下資源の開発輸入を検討すべきだ。

最近20年余りにわたり欧米諸国から、援助と引き換えに人権擁護やビジネスの透明性の実現などに細部まで干渉されてきたアフリカ諸国の政権にとって、中国が人権擁護などにおいて一切内政干渉せず、アフリカの欲しいモノと中国側の欲しい資源とを取引する単純明快な資源外交はアフリカ各国政府に歓迎された。

しかしアフリカの生活向上と、そのためのアフリカ人自らの国造りから見ると、**中国の資源外交には3つの問題点があるといわれる。**

第1に アフリカの資源と引き替えになされる中国製品やサービスの提供条件は、アフリカ諸国との密室交渉で決まる。

第2に 中国という世界の工場からの輸入品で済ませば、アフリカの地場産業の工業化の展望は遠のいてしまう。

第3にインフラの整備を中国企業に丸投げすればアフリカの国造りのシナリオが遠ざかってしまう。

このような問題点を踏まえて、日本は例えばケニアでモンバサ臨海地区のインフラを整備し油田探索の人材を育成しながら油田を探索開発するほか、ナイジェリアの電力計画の策定を支援し、また象牙海岸のアビジャンの交通計画も支援する予定。

アフリカでは南アを除いて統計が整備されていないので、以下の統計数値も出典はあるが全て推定値と理解されたい。

ナイジェリアの人口は 2011 年に 1 億 6250 万人で日本の 1.29 倍。面積は確定値で 923,768 平方 km で日本の 2.45 倍。

このような大国を除いて、19 世紀の欧米列強諸国の植民地争いの結果アフリカ特に西アフリカではベナン(人口 12 年 940 万)、トーゴ(同 630 万)のように小さい国々に分割しすぎて発展を妨げているという難点もあり、今後は国境を越えた経済プロジェクトの展開も必要になる。

西アフリカのギニア湾に面した地域は高温多湿の熱帯雨林地帯である。

ナイジェリア連邦共和国

GNI 2011 年 \$1,200/人

GNI(国民総所得)=GDP+海外送金又は受取額

Nigeria は北部の Hausa 族・Fulani 族、南西部の Yoruba 族、南東部の Igbo 族など約 300 の部族から成り、各部族は各々固有の言語を持ち国内で 527 の部族語が話されている。但し主な部族語はハウサ語、ヨルバ語、フラニ語、イボ語。

ナイジェリアの公用語は英語。共通語は「ナイジェリア英語」というナイジェリア訛りのクレオール英語の一種。

ここではナイジェリア人を「部族」に分けたが、これは蔑称ではなく例えばヨルバ族はヨルバ民族と解して良い。

ヨルバ族はハウサ族とは風貌も異なる民族で、ヨルバ語とハウサ語は方言関係にはなくお互いに独立した言語。

北部はアフロ・アジア語族(旧ハム・セム語族)圏に属しかつイスラム教圏でスンニー派が多いが、南部はニジェール・コンゴ語派圏でキリスト教プロテスタントが多い。この地域間、部族間、宗教間の対立が英国から 1960 年に独立した後もナイジェリアの統一を困難にしている。

北部の代表的言語のハウサ語は旧ハム語族のチャド語派に属し、ナイジェリア北部に大きな母語集団を持ち北隣のニジェールなど西アフリカ諸国からサハラ砂漠内まで通商用語として広く通用。

他方、南のヨルバ語はナイジェリア南西部の他に西隣のベナン、更に西のトーゴでも広く話されている。例えばフランス語圏のベナンからナイジェリアに出稼ぎに来ているヨルバ族はナイジェリアのヨルバ族とはヨルバ語で話が通じる。

列強諸国の植民地争いの妥協の結果アフリカの国境線は直線が多いことにもそれは現れているが、国境がいかにか人為的なものか肌で感じさせられた。

部族間対立の最たる例は Biafra 戦争だった。南東部のイボ族はもともと教育水準が高くナイジェリア政

府の官僚の多くを占めていたため他の部族の反発を招き、油田の発見もあり**イボ族がナイジェリアからの独立を目指して** 1967 年から 70 年まで**戦って敗れたもの**。この間、**イボ族の犠牲者は2百万人規模といわれその大半は餓死者だった**。

東京銀行で現地採用したイボ族の青年はこのビアフラ戦争で少年兵として戦った人で、英語もできヨルバ語地域たる当時の首都 Lagos に若い頃から長年住んでいるのに「ヨルバ語は聞けばわかる程度」だった。

当時**千代田化工建設**が Port Harcourt 石油掘削プロジェクトに取り組んでいた。当時からあった**ホンダ**の二輪車工場は今も発展中。

カネカはカネカロン製のつけ毛を、流行にすぐ対応できるようにナイジェリアの協力工場で作らせて卸売りし、**味の素**は調味料を小売り用の 10g 入りの小袋に分けて販売している。**サンヨー食品**は近くカップ麺の合弁生産を始める。

1966 年から軍政が続いたナイジェリアでは当時珍しい民政期にあり、76 年の民政移管時のオバサンジョ大統領のあと 79 年から北のフラニ族イスラム教徒のアルハジ・シェフ・シャガリ大統領の**民政下にあった**（そのあと 83 年から軍事政権が続く）。

当時国営放送も新聞もトップニュースは毎日シャガリ大統領がどうした、こう言ったというだけでニュースが分からないので、情報は BBC の定時英語ニュースに頼り毎朝聞いていた。但しナイジェリアの国営放送も毎日聞いていると興味深い。

当時厳しい輸入制限が続いていたが原油輸出が好調で、私は酷暑の中でナイジェリア中央銀行に日参し東京銀行ロンドン支店の協力を得て潤沢な外貨を円預金に吸収できた。

ナイジェリアはかつての奴隷海岸でギニア湾に面しており、91 年に首都をそのギニア湾に臨む西アフリカ最大の都市ラゴス(現在も経済的主都、人口 19 百万で東京の 1.44 倍)から、内陸部中部の人工都市アブジャへ移転した。

99 年から現在まで再び民政に戻り、原油・天然ガス・石炭・錫などの輸出により**経済大国として発展している**。

2010 年には南部イジョー族の民間人 Goodluck E. Jonathan が現大統領に就任した。

最近では、**世界銀行総裁候補にもなったオコンジョイウェアラ財務大臣を中心に**、石油大臣、証券取引委員会のトップなど、石油収入の使い道の透明性を確保するための**改革の核となるポジションは女性が占めている**。この陣容で政治家や官僚の汚職撲滅に取り組んでいる。

09 年から国内東北部でイスラム教過激派 Boko Haram が勢力を拡大しそのテロもあり治安は悪化している。またパイプラインからの原油盗難が相次ぎ、**更に最近はナイジェリア沖で原油タンカーなどへの海賊行為も横行している**。

ナイジェリア、アルジェリア、ケニアのような大国はイスラム過激派の掃討作戦を展開しており、却って過激派の逆襲を受けることが多い。

ガーナ共和国

人口 2011 年 2,500 万人、GNI 同年\$1,410/人。

ナイジェリアの西方のかつての黄金海岸にあるガーナの英語は訛りが少なく、特にガーナ大学の学生の英

語はイギリス英語に近い。

ガーナには 70 以上の部族語があるが主な言語は英語(公用語)とクワ諸語の Akan 語。ガーナは南部にアカン系部族、北部にはモン系部族が住む。

ガーナは 1957 年に英連邦内の自治領として独立し 60 年に Kwame Nkrumah 大統領の下で共和国となったが、66 年から軍政が続いていた。今は民政に戻り 2012 年には John Dramani Mahama が民主的に大統領に選任された。

同国はカカオなどを輸出しているが、地下資源としては金・ダイヤモンド・マンガン・ボーキサイトなどがあり、10 年には原油の商業生産も始めた。

味の素は 12 年から離乳サプリメントを合併生産している。

ガーナは親日的で投資環境も良く、日本企業の西アフリカ攻略の起点として見直されている。

野口英世は千円札の顔になっているが、黄熱病の病原体を発見したと過信して 1928 年にアクラで研究中に黄熱ウイルスに感染して殉職した。出張当時、アクラの西郊外にある野口英世の上半身像は人の背丈よりも高い雑草に覆われていた。

コートジヴォール(象牙海岸)共和国

人口 2010 年 2,160 万人、GNI 09 年\$1,106/人。

ガーナの西隣のフランス語圏 Côte d'Ivoire は 1960 年にウフェ=ボワニ大統領の下でフランスから独立、以来 70 年代まで周辺諸国から移民を受け入れてカカオ・コーヒー・バナナ・木材、特にカカオの輸出で繁栄し政治も安定し「象牙の奇跡」(le miracle ivoirien)といわれた。他にマンガン・ダイヤモンドなどの地下資源もある。

私が行った 81 年にはその繁栄の名残もあり当時の首都アビジャン(今でも経済的主都)はフランス風に整備されていた。週末に映画を見たところ、**フランス映画を字幕スーパーも吹き替えもなしに上映し観客はそのままでエンジョイしていた。**

しかし 80 年代から経済が悪化し政情も不安定になり、2002 年から 11 年まで断続的に内戦状態が続き、最後の内戦だけでも死者 1000 人以上、周辺諸国への難民 10 万人以上といわれる。**過去の受け入れ移民と象牙海岸先住民との対立もある。**

1983 年には首都をギニア湾沿いのアビジャンから内陸部のヤムスクロへ移転した。**2011 年に IMF 出身のイスラム教徒 Alassane Ouattara が最後の内戦に勝って現大統領になり民政に戻った。**

象牙海岸には味の素の販売拠点もある。

アビジャンで工事現場の労働者同士がフランス語で私語していたが、ラゴスのこのような場面で部族語を聞き慣れていた私には奇異に感じられた。

象牙海岸では Baule 語や Jula 語のような現地語の使用場面は限られており、英国の間接統治・部族分割統治政策に対しフランスの嘗ての直接統治政策とフランス同化政策の影響が強く感じられた。

セネガル以外の西アフリカや中央アフリカの旧フランス植民地のフランス語化は進んでいるという。

リベリア共和国

人口 2011 年 410 万人、GNI 12 年\$330/人

象牙海岸の西隣のアメリカ英語圏 Liberia は 1822 年にアメリカ植民協会がアフリカ系アメリカ人(黒人)や中南米にきた黒人の解放奴隷を率いて西アフリカの穀物海岸に移住したアメリカ黒人移住区で、1847 年にリベリア共和国として独立した。

ゴム・鉄鉱石の輸出や便宜地籍船からの収入もあり、私が出張した頃は経済的に安定し、ナイジェリアでは数日間の連続停電が頻発していたのに対し、**首都モンロヴィアの銀行の白人 officer は、たまにある1秒未満の停電からコンピューターを守るためのバックアップ電源をどうするかという議論をしていた。**

当時、通貨リベリア・ドルは米ドルと等価で、硬貨はあったが紙幣は米ドルがそのまま流通しドル紙幣などは透けて見えるほど擦り減っていた。最近ではリベリア紙幣が流通している。

1980 年、先住民のクラン族 Samuel Doe 軍曹による軍事クーデターが起き、更に 1989 年から 2003 年まで内戦が続き死者 15 万人以上、国外への難民 30 万人以上を出した。

「アメリコ・ライベリアン」と呼ばれるアメリカ系リベリア人に対する先住民の反発もあり経済的に疲弊しているが、今は民政期にある。

国連開発計画の元アフリカ局長 **Ellen J. Sirleaf 女史**は大統領になる以前にこの内戦中は投獄や亡命を経験したが、**2006 年にはアフリカ初の公選による女性大統領になり、11 年にノーベル平和賞を受賞した。**

以上のように最近では各国とも国際的圧力もあり民政化が進んでいる。

また列強の植民地政策の結果、西アフリカの公用語を西から挙げれば、アメリカ英語、フランス語、イギリス英語、またフランス語、更にイギリス英語と縞模様になっている。

以上

熊野 裕(くまの・ゆたか)略歴

1959 年 京都大学 法学部卒業

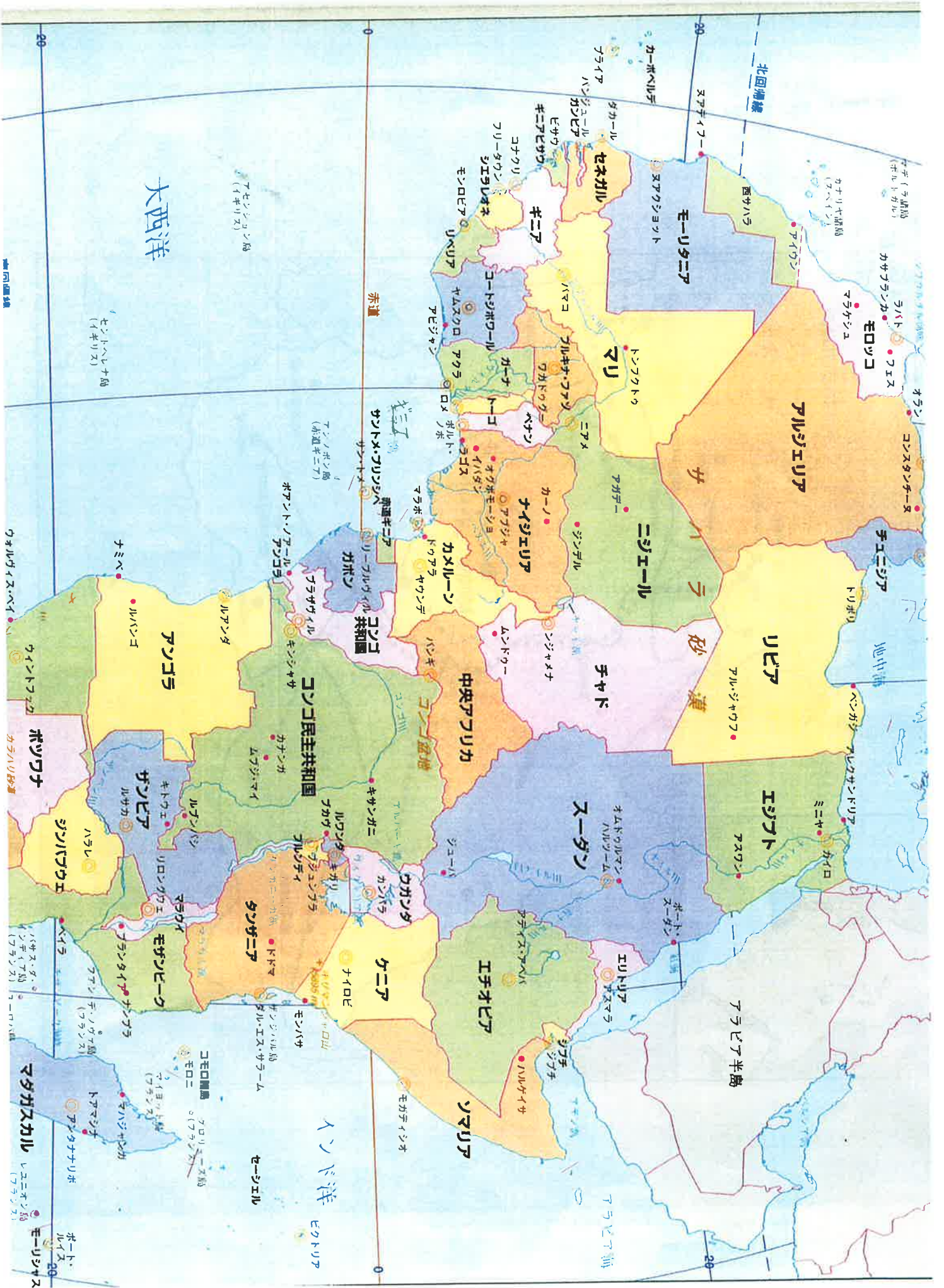
東京銀行(現・三菱東京 UFJ 銀行)入行

国内本支店、ニューヨーク、デュッセルドルフ、ラゴス、バンコック勤務

1991 年 北川工業(株)(名証2部上場)入社

元常勤監査役

2010 年退職



Federal Republic of Nigeria

